

令和7年度

すくわくプログラム活動報告書
『園庭遊び』
(実施対象：0～5歳児)

ひなたの丘保育園



テーマ

園庭遊び

設定理由

都心の駅前という立地故、小規模ながらも植栽豊かな園庭を設け、季節を感じながら園庭遊びを楽しんでいる。水を使うことで砂の変化に気付いたり、園の花や実を遊びに活用する姿があるため、「園庭」をテーマとして設定する。

活動のねらい

園庭遊びで深まる五感や子どもの育ちを考えていく。

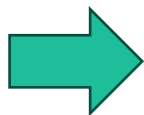
対象クラス

0歳児/9名 1歳児/10名 2歳児/12名
3歳児/10名 4歳児/11名 5歳児/5名

スケジュール

令和7年4月～令和8年3月

もっと掘ろうよ！



水が溜まった！



気持ちいい～♪



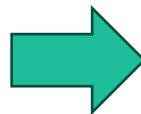
園庭に穴を！

- 幼児クラスの子どもたちが、園庭に数日かけて穴を掘ることを楽しんでた。次第に深くなっていくその穴を見て、1歳児、2歳児も真似をしてシャベルで掘ったり、穴に足を入れてみたりして遊び始める。
- 雨が降った次の日、穴に水が溜まり、手を入れて泥水や泥の感触を楽しんだり、子どもが作った穴が自然と融合し、遊びが展開していった。

活動のために準備した
素材や道具・環境設定

子どもたちの育ち

- スコップ（大きい）・シャベル・バケツ・砂場玩具
- 幼児は道具を使い分けたり、友だちと力を合わせたりと、“穴を掘る”という目的のために工夫する姿が見られる。乳児はその姿を観察し、真似たり、穴に入ってどんなものかを確認したりしながら、学びを得ている。
- 掘った穴に雨水が溜まったことをきっかけに、水と砂が混ざったときの感触の違いに不思議さを感じ、興味が深まっているようだった。



五感を使って楽しもう！

- ・園庭で水を使い、ダイナミックに遊ぶ活動を取り入れると、手や足の裏で感触を存分に味わっていた。水を入れて粘度が高まったことで、まとまりやすくなったことを面白がり、泥を集めてアイスや山を作っていた。
- ・砂場のある公園に散歩に行くと、たくさんのサラサラの砂の感触を喜び、ザクザクと掬う感触やサラサラと移し替えることを楽しんでいた。また、梅の実や木の実、枝などを見つけると、食材に見立ててごっこ遊びが展開された。

活動のために準備した
素材や道具・環境設定

子どもたちの育ち

- ・スコップ（大きい）・シャベル・バケツ・砂場玩具・タライ・水・ホース
- ・汚れてもよい衣服の準備について掲示・シャワー・タオル
- ・砂とは違う、泥の感触に心地良さや気持ち悪さを感じ、表情や仕草で表現していた。保育士がその感触を面白がって、オノマトペを使って伝え、子どもたちも言葉にして表現する姿が見られた。
- ・裸足になって汚れを気にせずに泥遊びをすることで、全身で感触を味わうことができた。

どんな園庭にしたらワクワクする？

滑り台やりたい



ノコギリ難しい



完成!!



喜んで使ってくれるかな



でも、走れる場所
なくなっちゃう？

年下の友だちのために作ろう！

- 泥遊びや公園で砂遊びを楽しむ姿から、幼児クラスの子どもたちと、“どんな園庭だともっと楽しい？”と話し合いをした。『砂場がほしい』『毎日滑り台ができれば最高！』など、子どもの夢や希望を聞き出した。
- 保育間でも子どもの思いを基に話し合いを繰り返し、砂と土が扱える砂場、園庭や散歩先で見つけた石や木の実などを入れておける箱を準備することが決まる。箱は5歳児が卒園制作として作成した。

環境のために準備した
素材や道具・環境設定

子どもたちの育ち

- 様々な遊具の写真・様々な園庭や公園の写真・ホワイトボード
- 板 ・ のこぎり ・ トンカチ ・ 釘 ・ ニス

- 自分たちの希望を上げつつも、実際の園庭の使い方などを想像しながら話合っていた。
- 年下の友だちのために、思いを込めて箱の制作をする。また、トンカチやのこぎりなどの道具を使う経験を通して、安全や慎重な行動への意識が高まった。

砂と土が使える砂場完成！



いらっしゃいませ～



もっと掘れるかな？



やっぱり土の方が
固まるねえ。



職員も遊んで
みました♪

- 子どもたち、保育士の希望が詰まった砂場が完成した。砂場の囲いがあることで、お店屋さんのイメージが高まり、型抜きなどを使った見立て遊びを楽しむ姿が多かった。様々な遊び方を提案しようと、保育士が山を作ると、見様見真似で砂を掘ったり、手の平で叩いて固めたりする。また穴を掘りトンネルを作ると、車を走らせるなど、砂場での新たな遊び方を見出す姿があった。
- 幼児クラスは土を使って泥団子作りを楽しむ中で、これまで遊んでいた砂との違いを感じていた。
- 土で存分に遊んだ経験が少ない職員もいたため、園内研修として、職員が遊ぶ日を設けた。

活動のために準備した
素材や道具・環境設定

- 砂場（土、泥団子用土）・砂場道具・シャベル・水・泥団子の本
- 宝箱（素材Box）・木の実・枝・

子どもたちの育ち

- 砂の上を歩く、運ぶ、しゃがむなど、体幹が育つ。
- 砂の質が良くなり、可塑性が高まったことで、ごっこ遊びのイメージも高まり、やり取りが盛んになった。
- 泥団子作りでは土の感触を確かめながら、力加減を調整し、壊れたときの悔しさやもう一度作る喜びなど、継続的に挑戦する楽しさを味わう。

全体の振り返り

幼児クラスの子どもたちが、毎日わくわくしながらコツコツと園庭の地面に穴を掘っていた。雨水や砂、葉が溜まることで魅力的な穴となり、子どもたちの遊びが発展していった。

更に砂に触れてほしいという思いから砂場道具を持って、近隣の公園に行き、砂の感触に触れたり、道具を使って見立て遊びを楽しんだりと砂に触れる大切さを感じた。

園庭に「砂・土・泥・水」を用いた感触遊びや、継続的な遊びをいつでも保障できるよう砂場を設置してみると、砂遊びを身近に感じ、幼児は泥団子を作ることに興味を抱いた。砂と土、それぞれで作る泥団子の違いに気付いたり、継続して遊ぶ楽しさを味わったりした。

今後も砂や土を使った遊びの発展が豊かになるよう職員の研修も取り入れていきたいと思う。